

PRESENT



## 使う「引き出し」は、自分で選ぶ



こんにちは！<sup>すうがくか</sup>数学科の吉高です。<sup>うんどうかい</sup>運動会の練習が<sup>れんしゅう</sup>本格的に<sup>ほんかくてき</sup>始まりましたね。<sup>はじ</sup>

運動会のプログラムの中でも全校生徒の演技「ソーラン節」<sup>ぶし</sup>は今年も楽しみです。練習はすでに始まっており、みんなの表情から、本気の気持ち<sup>ほんき きも</sup>が伝わってきます。カッコいい動き<sup>うご</sup>が楽しい人もいれば、「覚えられない」「リズムが難しい」と感じている人もいるかもしれません。

ソーラン節は、全体の流れの中で、一つひとつの動きがつながっていきますよね。練習を見ていると、最初は先生に動きを教えてもらって真似ますが、覚えて踊るとなると「次はさっきと同じパターンか？ 特別な動きが入るところか？」<sup>とくべつ</sup>「ここは切り替わる場面か？」<sup>き か ばめん</sup>など、その時その時で\*\*“どの動きを使うか”をみんな自分で考えて動いています。

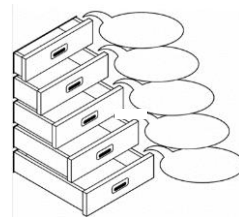
実はこの力、普段の生活や学習にも同じように必要なんです。

わからない問題にぶつかったとき、「どの解き方(=引き出し)を使えばいいか？」を考えること。

すぐに答えを聞くのではなく、まず自分の中にある知識<sup>ちしき</sup>をどう使うかを判断<sup>つか</sup>してみる。

これを、心理学では「メタ認知」と呼びます。

一流の学習者ほど、この“引き出しを選ぶ力”が高いと言われています。



ベンジャミン・フランクリン(アメリカの政治家であり発明家)はこう言いました。

「言われたことは忘れる。教えられたことは覚える。

でも、自分で関わったことは身につく。」

みんなが今やっているソーラン節の練習は、まさに“自分で考えて動く”ことそのものです。

自分で考え、選び、挑戦<sup>ちょうせん</sup>する。その力は、ソーラン節だけでなく、これからの学習にも、将来にもつながっていくと私思います。位置が決まればいよいよ全体練習。考えなくても身体が動くようになり、みんなの熱い気持ちが乗っていくでしょう。本気が伝わる最高の演技をつくり上げてください。

「自分で引き出しを選ぶ力。それを考えなくてもできるように身につける力」この機会にしっかり育てていきましょう。最後まで読んでくれてありがとう。